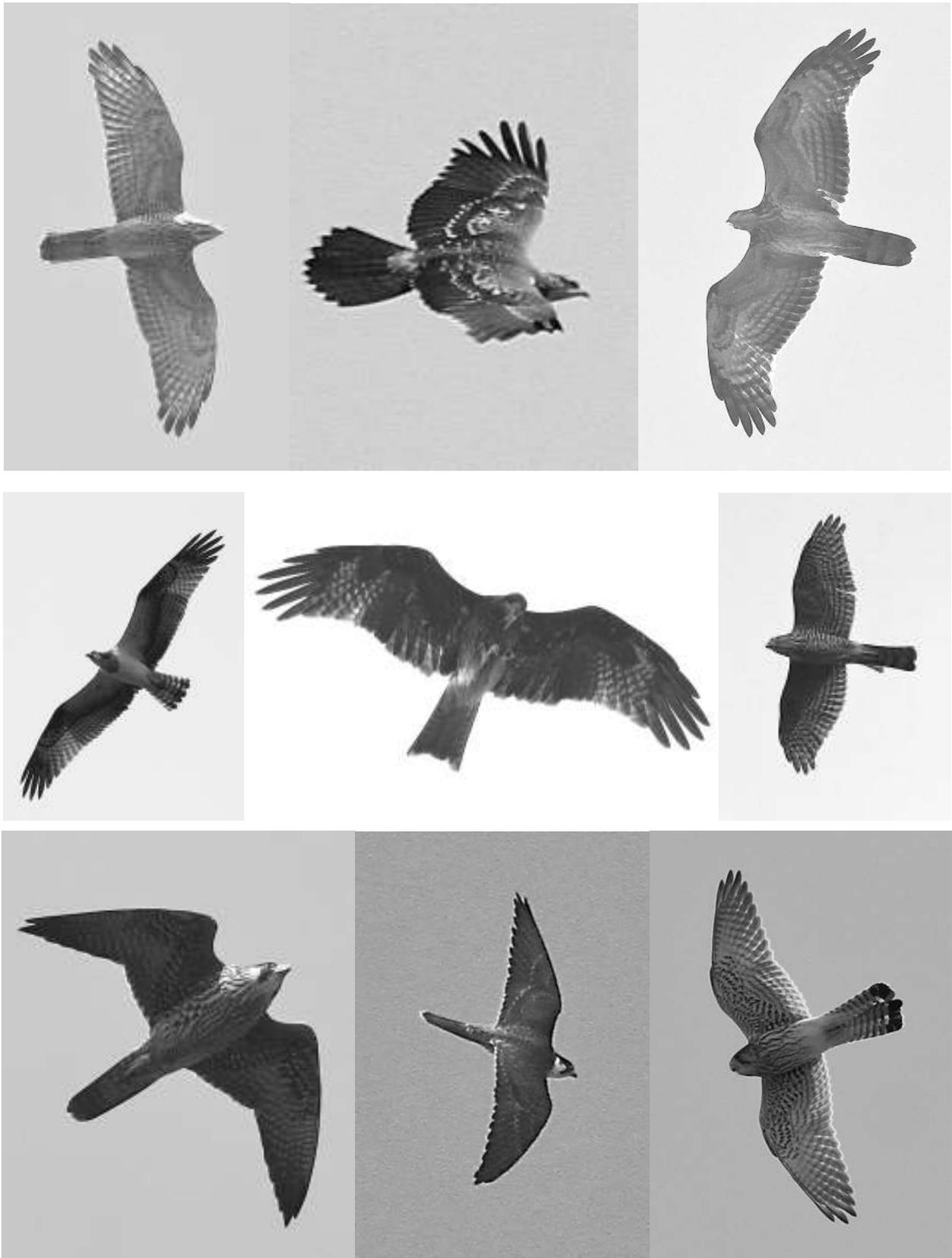


図版：武山のタカたち－2013年（撮影：南條治美）



- ①左上:サンバ(幼鳥 10月13日)、②上中:ハチクマ(幼鳥 10月7日)、③右上:ハチクマ(幼鳥 9月28日)
④左中:ミサゴ(10月8日)、⑤中央:トビ(10月6日)、⑥中右:ツミ(10月8日)
⑦左下:ハヤブサ(9月22日)、⑧下中:チゴハヤブサ(10月8日)、⑨右下:チョウゲンボウ(9月27日)

はじめに

本書は武山における2013年秋期のタカ類の渡りに関する記録をまとめたものである。三浦半島渡り鳥連絡会では、武山山頂の展望台において、1992年から毎秋調査を行っている。2007年からは、1件の渡り記録に対して、天気や風向などの気象データ、高度やコースなどの観察データを一緒に記録する方式を採用した。これにより、例えば、サシバは北東風時に多数の渡りが記録されたり、時間帯によって飛行高度が違うなど、観察者がこれまでなんとなく頭の中で分かっていたことが、得られたデータを解析することで実際にそうであることが分かってきた。また、年齢構成など今まで分からなかったこともデータをグラフ化するなどして明らかになってきた。本書では13年シーズンを中心にまとめるとともに、07年以降のデータとの比較もわかるように表現している。今後も、同様な精度で調査と集計を継続し、10年程度のデータから解析を行えば、さらに渡りの傾向などが明らかになってくるのではないかと考えている。なお、本書では2012年末に改訂された日本鳥類目録第7版の種の配列に一部従った。(記録とりまとめと文責:宮脇)

調査地の概要

神奈川県横須賀市にある武山(たけやま)は、三浦半島の中央よりやや南(北緯35度13分12秒, 東経139度39分21秒)に位置する丘陵地で、山頂の標高は200mである。山頂には展望台が設置されており、ここからの眺望は北西方向を除き、視界の良い日には、北に横浜市西区の高層ビル群、東～南東にかけて房総半島、南に大島、南西～西に伊豆半島と270度以上の広範囲を望むことができる。武山の丘陵以南の三浦半島は標高30～50m程度の台地状の地形となり、この台地状の平らな地形を海に見立てると、武山の丘陵はさながら海に突き出た岬のように見え、



◆横須賀市須軽谷から見た武山山頂付近(2013年3月、宮脇)

主に房総半島から飛来するサシバやほかのタカたちにとって良いランドマークになっていると考えられる。また、武山の丘陵は、西北西～東南東にかけて標高約100～200mの稜線が約3kmにわたって連なっている。サシバが渡る時期に卓越して吹くのは北東風であり、この風がちょうど武山の丘陵にほぼ直角に当たることにより、稜線沿いにはよい上昇気流が発生する。当地ではこの風と気流を利用してほとんどはばたくことなく渡っていくサシバやほかのタカたちを度々観察している。三浦半島渡り鳥連絡会では、この展望台で1992年から毎年秋期にサシバを中心とするタカ類の渡り調査

を実施し、これまでに15種類のタカやハヤブサの仲間を記録している(表1)。主に観察される種類は、通過数が多い順に、サシバ、ハチクマ、チゴハヤブサ、ツミで、ほかにミサゴ、オオタカ、ハイタカ、ノスリなどが毎年観察されている。また、稀だが複数回観察されている種類にアカハラダカとチュウヒが挙げられる。2010年に観察されたアカアシチョウゲンボウは神奈川県では初記録となった。なお、1992年～2013年のサシバとハチクマの渡り数を巻末に掲載したので参考にされたい。

調査期間

2013年9月12日～10月14日まで実施した。9月中旬と10月上旬に台風の影響で6日間が中止になったため、調査が実施できたのは26日間だった。1シーズンの調査日が30日を切ったのは、2005年以来となった。また、10月15日から展望台の改修工事が行われたため、例年10月中旬～11月にかけて実施しているハイタカ属などの渡り調査も行えなかった。

表1：武山で確認されているタカ・ハヤブサ類

No.	種名	学名
1	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>
2	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>
3	トビ	<i>Milvus migrans</i>
4	チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>
5	アカハラダカ	<i>Accipiter soloensis</i>
6	ツミ	<i>Accipiter gularis</i>
7	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>
8	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>
9	サシバ	<i>Butastur indicus</i>
10	ノスリ	<i>Buteo buteo</i>
11	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>
12	アカアシチョウゲンボウ	<i>Falco amurensis</i>
13	コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>
14	チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>
15	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>

1. サシバ *Butastur indicus*

A) 時期(図1)

渡り総数は561羽で、2004年～12年の平均の548羽と同様だった(12年は763羽)。渡りの初認は台風明けの9月17日(8羽)で、終認は10月14日(1羽)であった。最も通過数が多かったのは10月10日の248羽で、次いで9月27日の181羽であった。ほかの日は多くても40羽以下で、多い日との差が大きく、ピークがはっきりしていた。9月と10月の通過数の割合は、9月が232羽(41%、12年は12%)、10月が329羽(59%、12年は88%)と大きな差はなかった。(N=561)

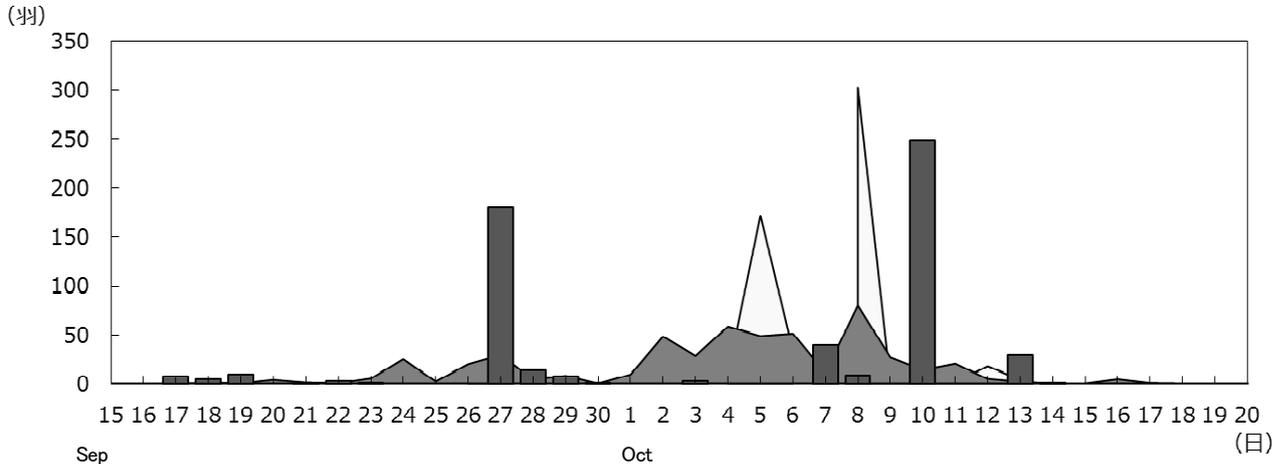


図1 : サシバの日別集計(背後の山形のグラフは12年(白色)、07~12年平均(灰色)のデータを表す)

B) 時間帯(図2~3)

最も多かった時間帯は、9時台の205羽(37%、12年は33%)で、次いで、7時台の169羽(30%、12年は9%)、8時台の78羽(14%、12年は13%)だった。12年は6時台の割合が16%と高かったが、13年は1%に過ぎなかった。房総半島のねぐらを発つグループが少なかったか、気象条件が整うのを待ってから飛び立ったためと考えられた。最も早い通過個体は6時35分(1羽、10月14日)で、遅い個体は13時43分(5羽、10月7日)であった。(N=561)

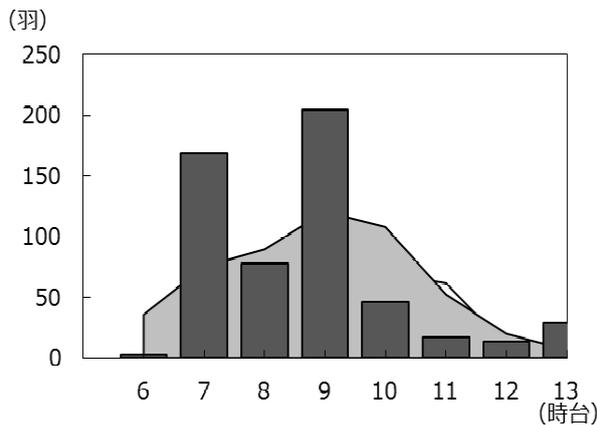


図2 : サシバの時間別集計(60分毎)

(背後の山形のグラフは12年(白色)、07~12年平均(灰色)のデータを表す)

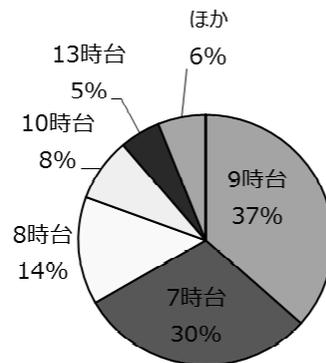


図3 : サシバの時間別集計(60分毎)

C) コース(図4)

武山の丘陵付近を通過し、北西方向に飛去した個体を「武山」、武山の丘陵より北側の観音崎～猿島～衣笠山方向を通過した個体を「北」、武山の丘陵より南側の津久井～上宮田～長井方向を通過した個体を「南」として集計したところ、最も多かったのは南の221羽(39%、12年は34%)で、武山は193羽(34%、12年は48%)、北は147羽(26%、12年は18%)だった。北と南コースの割合が例年より10~15%高い結果となったが、これは天空スキャン(調